

マザアスニュース 第20号

ひだまり

2001年4月1日(年4回発行)

発行／社会福祉法人マザアス

〒203-0004 東久留米市氷川台2-5-7

Tel 0424-77-7261

Fax 0424-77-7500

発行責任者／高原 敏夫

編集責任者／萱野 彰一郎



それ、がんばれ！
ドドンがドン！
いや～タイ・コーだね。

3月3日のひな祭りの日に、東久留米市立第四小学校のみなさんが遊びに来て、太鼓の演奏を披露してくれました。

間近で聞く太鼓の音は腹の底まで響きわたり、その迫力にみな圧倒されていました。パチさばきもなかなかサマになっていましたよ。また来てくださいね。



「マザアスの桜の木」

主任生活相談員 高原 信夫

冬の厳しい寒さから、日差しが温かく感じられる季節となって参りました。

マザアスも開設して、もうすぐ7年目になろうとしています。マザアスの中庭にある桜の木も当初は2メートル程でしたが、今では2階から花見が出来るほどに成長し、時間が経っていることをしみじみと感じさせてくれます。

先日、ある利用者の方と「あの頃はみんな元気だったわね」、「よく喧嘩して大変だったわ」など、開設してから1、2年目の楽しかった思い出をお話する機会がありました。考えてみますと、それぞれで生活されていた方が、様々な事情により介護が必要となり、特別養護老人ホームという集団生活にいきなり入ってしまったわけですから、心のすれ違い

があって当たり前です。当時は体力的にも今より元気な方が多かったので、トラブルも絶えませんでした。しかし、時間の経過と共に集団生活に慣れていくことで、利用者同士の気遣いや配慮がお互いを支え合い、ほんの少しの気遣いが積み重なって、マザアス全体を支えていることを常を感じております。

介護保険になり、「終の棲家」といわれていた老人ホームが、在宅に戻るための「通過施設」と言われるようになりました。けれど実際には家財道具一式を処分して、必要な物のみ持参されて入所した方も数多くいらっしゃいます。それぞれの利用者やご家族の気持ちに即した対応をしていくよう心がけながら、マザアスの桜の木と一緒に成長していきたいと思います。

マザアス職員も勉強しています！

毎年恒例となった「職員研究発表会」が、去る2月22日におこなわれました。興味深い研究が四例報告されましたが、そのうちのひとつを以下にご紹介します。（抜粋）

高齢者世帯への援助事例

マザアス氷川台訪問サービス課

～保健・医療・福祉によるチームアプローチの効果と課題～

1. 本研究の目的

チームでケアをした事例を通して、我われの考えるチームケアの現状と今後の課題を明確にする。

2. 研究の方法

「成功しているチームの特性」の定義に基づいて、ある要介護高齢者の生活をケアしたすべての関係者にアンケート調査を行い、結果を分析する。

＜調査対象者＞

主治医1名、クリニック看護婦1名、訪問看護婦2名、家族1名（義妹）

ヘルパー2名、在宅介護支援センター保健婦（ケアマネージャー）1名 合計8名

3. アンケート内容

質 問	アンケートの答えからわかったこと
チームで働くための目標や規範がメンバー全員に共有でき、自分もそれに合意していたと思う。	カンファレンスを行ったことによって、目標の共有ができたとするメンバーが多かった。しかし、カンファレンスによって目標の共有ができたとは思えないと感じる職種もあり、チームメンバーの職種によって受け取り方が異なっていた。
高齢者のニーズに合った専門性を各々のメンバーが持っていたと思う。	専門性は各々高い評価をしている。しかし、他の職種の専門性についてわからないという答えもある。これは、すべてのチームメンバーに各々の専門性が明らかになる程には、情報伝達が十分にされていない。
チームが燃え尽き症候群や過度の緊張に陥るのをやわらげる手段をもち、それを使っていたと思う。	各自で対処していたが、チームとしては意識していなかった。
チームメンバーの健康増進とけがの防止を意識して、計画的に活動していた。	全体的に評価は低く、特に意識していなかった。保健職は、福祉職に指導はしていた。
地域サービスを的確に選択し、利用することによって家族を援助できたと思う。	評価は高い。家族がサービス受け入れに消極的であったため、ジレンマを感じていた職種もある。
チームの技術向上のために、機会を提供できたと思う。	評価はやや低い。お互いの技術向上になるような関わりはできなかった。お互いのコミュニケーション不足だと考えられる。

4. 結 論

- (1) 一事例を通してチームケアとして成功したか否かについては、どちらともいえない。
- (2) カンファレンスによって目標が概ね共有できたこと、討議によつて的確な地域サービスを選択できたことが評価できる。
- (3) チームケアとして残された課題は次の点である。
 - ① チームの中に目標を共有できた職種とできなかった職種があった。すべてのメンバーが目標を共有できるような十分な情報伝達が必要である。その方法としてプログラム化されたカンファレンスと記録の充実があげられる。
 - ② 他職種への理解（関心）の程度にも職種間にばらつきがあった。すべての職種の者が他職種へ理解（関心）を示すことができるように一致していく必要がある。

声 の 欄

今月は、特養のケアワーカーに「私の好きなこと」は何ですか?と聞いてみました。



篠 田 弘 美

私の好きな事と言えば、食べる事、寝る事、そして意外や意外、料理（特にお菓子）、編物、パッチワーク、キルト、テディベア作り、ガーデニング、天気の良い日の洗濯と掃除、雨の日ぼおーとする事、このちゃん（犬）の散歩、カラオケ、等々。他にもたくさん。とにかく、自分の一日が好きです。でも特に好きなのは、バレーボールをする事。もう大好き。いつか毎日でもいいから朝から晩までバレー三昧をしてみたいな。



夢は男子のチームのリベロになる事。今いるチームは男子・女子のチームがありますが、「今に、この胸を筋肉にきっときっとするから、リベロにしてねっねっねっ」とお願いしてもなかなかうんと言ってくれない。女子は「しのさんなら絶対できるよ。」と応援してくれている。いつか男子のリベロで試合に出れる日を夢見て練習するのも好きです。そしてやっぱり誇りの持てる仕事をするのも好きです。（リベロ=レシーブ専門の人）



広 田 典 彦

僕の好きな事、それは色々な所に出かける事です。休みの日にはだいたいどこかに行っています。仕事で疲れていて次の日が休みという時、いつも明日は家でゆっくりしようと思うのですが当日になるとやっぱり出かけてしまいます。特に良く晴れた日には。

別に遠くに行くわけではなく、自分の町の周辺を車や自転車で回っています。どちらかという自転車で出かける方が僕は好きです。車では入って行けない様な路地を進んでいったり、途中気になる店が有れば入ってみたりして。ゆっくりと走っている分色々な物が見えてきます。周りの風景やすれちがう人達の表情、季節の移り変わりなど。いつも新しい発見があります。

どんな事でも、常に何か新しいものを求めていく、それはとても大切な事ではないでしょうか。僕はこれからも、何かを発見する事を続けていきます。



榎 谷 緑

よく晴れた暖かい日に、我が愛しのクルマでドライブ。行った先で何かおいしいものを食べる。温泉があれば、尚よろしい。そして良い景色を眺めながら、気持ちを新たに帰途につく。

（Aコース）



大好きな雑貨屋さんを仲間と共に、あちこちめぐる。そして、おいしいものを食べながらのおしゃべり。雑貨屋さんで仕入れたものを部屋に帰ってから、飾ったりなどして良い気分で眠りにつく。（Bコース）

私の好きなことのフルコースを2種類挙げてみました。これから暖かくなり、Aコースの機会が増えていくことと思います。しかし、どちらにしても「おいしいものを食べる」ことは、私には欠かすことができないようです。



小 林 由 佳

2年程前から趣味でバードウォッチングを始めました。目が慣れてきたせいか、だんだんと楽しさがわかってきました。時々探鳥会に参加して、ベテランの方たちに教えて頂くのですが、個人的にも友人を誘って鳥を探しに出かけます。

雑木林の残る里山や池のある公園や海辺など、探鳥スポットは意外と近くにあります。一番身近なのが、黒目川・落合川の川沿いです。ちょうど今はカモ類が多く飛来しているので見た目にもにぎやかな時期です。ほかにも、水辺や土手、川沿いの木々に集まる鳥も様々で、今まで見つけた鳥を数えてみたら、20種類程になりました。出会う鳥たちによって季節の移り変わりを感じられるのが楽しさのひとつかもしれません。春にはまた顔ぶれが変わるので今から楽しみです。



研究発表の報告その2 「施設内から表舞台へ」



中央／講評の是枝祥子先生(大妻女子大学助教授)
左／中村ひろ子、右／岩崎伸子

施設内職員研究発表会も3回の実績を重ね、内容が年々充実してきていることは嬉しい限りである。

しかし、この発表内容を施設外に持ち出して発表したことは今迄なかった。

3月9日、マザアスでの発表会の助言者である日本社会事業大学教授・児玉桂子先生の推薦もあって、昨年マザアスで発表されたなかから、「P G体操の効果・その後～身体能力調査と意識調査の検証～」を、東京都福祉人材センター研修室主催の「平成12年度社会福祉実践研究発表会」で発表する機会を得た。

東京都社会福祉医療研修センターに於ける発表は、福祉の6分野から32題あり、わがマザアス東久留米は高齢者福祉コースの6題のひとつであり、看護課の岩崎、中村看護婦の2名によって発表された。

各職場で試行錯誤しているテーマであった為か、質問あり、参考文献の照会ありで、一番の盛り上がりを見せた内容であったように感じた。

発表された2人の労苦と勇気に感謝し、これが外向けの発表への突破口になることを願っている。

施設長 高原 敏夫



栄養課だより

介護保険制度がスタートして2年目の春を迎えました。マザアスにとって7回目の春でもあります。中庭のあんなに細く、頼りなげだった桜の木が、少し太くなって、満開の花を咲かせています。不安でいっぱいだった私達にも、チョッピリ自信もできてきました。

利用者の皆さんも、高齢になられて、食事形態の工夫や、個別対応の必要な方などが多くいらっしゃいますが、会話がはずみ、和気あいあいと食事を楽しんでいただいていると実感しています。

豊かな時代になって、食材の「旬」とか「盛り」とかの言葉が聞かれなくなってしまいました。今年度もマザアスの栄養課は、日本の四季を大切に、小さな行事にも心を注いだ家庭料理を皆さんといっしょに楽しみたいと思っております。

さあ、お花見ご膳から、はじまり、はじまり……………。

調理師 野村 廣美



老人クラブ 門前会の皆さん



編集後記

北風が冷たい12月のある日、老人クラブ門前会の5人の方が、マザアスの中庭に、チューリップの球根と葉ぼたんを植えてくださいました(上の写真)。2月中旬に小さな芽を出したチューリップは、愛らしいつぼみをつけました。

あと数日で花を咲かせることでしょう。何色かしら……………とても楽しみです。

心暖まるプレゼントをありがとうございます。

山崎 宣子

特別養護老人ホーム マザアス東久留米	デイサービスセンター マザアス冰川台	ヘルパーステーション マザアス冰川台	
Tel 77-7261 Fax 77-7500	Tel 77-7263 Fax 77-7500	Tel 77-7260 Fax 77-7500	
訪問看護ステーション マザアス冰川台	東久留米市東部 在宅介護支援センター	グループホーム たきやま	老人デイサービスセンター マザアス大門
Tel/Fax 70-1740	Tel/Fax 73-9996	Tel/Fax 77-1525	Tel 70-0065 Fax 70-8024